

こんにちは♪ ひさしぶり♪ みんな元気にしてた？ あっという間に夏休みは終わってしまいましたね。酷暑。今年もいちばん暑い夏でした。40℃って！ いったいどこまで気温は上がっていくことやら。地球温暖化が数字ではなく、実感される夏でしたね。さあ、新シーズン。まだまだまだ暑いですが、シャキッとしましょう！

オススメ本紹介！

『本でした』 又吉直樹 ヨシタケシンスケ ポプラ社

『その本は』のゴールドデン・コンビ再び！ 今度は、「どんなものでも本にもどします」。村はずれにたっている空き家に二人の男が住みつけました。二人はバラバラになってしまった本や破れてしまった本を特殊な技術で元に戻すのだと言います。それどころか、ほんの1ページでも、1行だけでも、タイトルだけでも、ちょっとした手がかりさえあれば、元の本の形にできる、と言うのです。なんでも、「世界中のあらゆる本のデータが入っている機械」と「どんな本でもボタン一つで作れる機械」を持っているのだそう。やり方は簡単。「本の復元依頼シート」にわかっていることを書くだけ。たとえば、タイトルが「かわいそうなゴリラ」。あるいは、「当時の読者の割合」が「看護師になる人の10% 力士になった人の95%」。さて、どんな本ができあがるのでしょうか？

『あの夏のキミを探して』 汐見夏衛 スターツ出版

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』の汐見さんの戦争について学ぶことができる物語。学校に行くことができなくなってしまった中1の陽和は、夏休みを祖父母の田舎で過ごすことにした。「自由研究で戦争について調べたい」というのが口実だが、学校から遠ざかることができるのなら、場所はどこだってかまわないというのが真相だった。大好きだった裏山も、いまの自分にはワクワクすることなんてできなかった。でも、気持ちのいい小川に行ってみると、「来てよかった」と思うと同時に涙が出てきた。何年かぶりに、思いっきり泣いた。「ばかやろー！」と何度も叫ぶ。すると、「そんなに泣いてどうしたの」と一人の女の子が現れた。彼女は古風な服装をしていた…。

『あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。』も映画化決定！

☆『ババヤガの夜』 大谷 ^{あきら} 河出書房新社

日本人作家初！ 世界最高峰のミステリー文学賞〈ダガー賞〉翻訳部門を受賞！ 「ワンシッピング体験」という言葉をご存知でしょうか？ 一度座って読み始め、そのまま集中力が途切れることなく読破してしまうことをいうのですが、ひさしぶりにそのような体験をさせる本でした。バツグンに面白い一気読み必至の本だということです。ちなみにタイトルの「ババヤガ」とは、スラブ民話に出てくる魔女のことです。恐ろしい存在ですが、良い役を演じることもあります。

喧嘩なら誰にも負けない新道依子は、荒っぽい手段で関東有数規模の暴力団・内樹會にスカウトされる。会長が溺愛する18歳の娘・尚子の毎日の送り迎えとボディガードを任せたいというのだ。やたら腕っ節の強い女性であるために、見いだされたのだった。前任者の男は、尚子に手を出した疑いで、右手だけになっていた。お屋敷に住み込んで、お嬢さまを毎日傷一つ付けずに学校に送り出し、傷一つ付けず家に帰す。それが仕事となった…。

『給水塔から見た虹は』 窪 美澄 集英社

「あなたと私は違う。だから、一緒にいよう」。直木賞作家の窪さんの到達点！

中2の桐乃の暮らす、屋上に給水塔のある団地は、昭和に建てられた巨大な団地群、そのなかでも家賃の安い低層団地群にある。そこには、日本人だけではなく、さまざまな国にルーツを持つ人々がたくさん暮らしていた。「外人なんていう人はこの世にはいない」というのが持論の桐乃の母は、近所のスーパーのレジ打ちが仕事だが、週に3日市民センターでボランティアで日本語教室の先生をし、それ以外の日も自宅を開放して外国人の勉強のサポートしている。いろいろな相談事にも乗っているらしい。どうしてそこまでというくらい外国人の役に立とうとする母が桐乃は気に食わない。自分がないがしろにされている気がするのだ。「団地の子」がいないような遠くの県立の進学校に行って、高校に入ったら大学進学資金を貯めるためにバイトをして、遠くの大学へと入り団地を出る。それが夢だった。

同じクラスに、ベトナム人のいじめられっ子のヒュウがいた。彼の家は母子家庭で、母親は昼間は食品加工の工場で働き、夜は弁当工場で働いている。睡眠時間は、3、4時間だろう。むしゃくしゃしたとき、ヒュウはどこかへ行ってしまうと思うけれど、この国にも、学校にも、家にも居場所がなかった。彼は団地のそばでたむろしている外国人のグループに引き込まれてしまう。そんなヒュウと桐乃は親しくなるのだが…。

☆『あのころの僕は』 小池水音 集英社

河合隼雄物語賞受賞作！ 大傑作です！

5歳で母を病で喪った僕は、4つの家を行き来して幼稚園に通うことになったけれど、誰もがやさしく、愛情をたっぷり注がれて育った。2学期にイギリスから転入生がやってきた。さりかちゃん。僕は彼女が僕みたいだと感じていた。つぎからつぎへと差し出されるたくさんの親切を、関心を、この女の子もまた抱えきれずにいるのではないかと思ったのだ。ふだん彼女が見せることのない満面の笑みを僕に見せてくれてから、二人は仲良しになった。さりかちゃんの部屋に入り浸るようになった。さりかちゃんはRPGに夢中になっていて、僕は彼女がプレイするのをいつも見ていた。ゲームのことを知り尽くして、たちまち攻略していく彼女に憧れた。誕生日のプレゼントには、同じゲームを買ってもらった。夢中になって彼女の後を追いかけていたある日、さりかちゃんは驚くべき宣言をした。このゲームをクリアしたら、もうゲームをやめるの。いっさいのゲームをやめて、二人でお勉強をするのだそうだ。お勉強をして、いっしょに大学生になって、学者になり、イギリスへ帰る。それが彼女の夢だというのだ。

☆『あなたの名』 小池水音 新潮社

同じ水音さんの最新作！ こちらも大傑作です！

「わたしはたぶん、おかあさんのいろんな話が聞きたくなる」。

腎臓がんで余命5ヶ月を宣告された74歳の母・冬香と、念願の出産を控えた娘・紗南。冬香は、同じ腎臓がんからはじまるがんで、投薬で弱り切ったすえに、家族に悲しい思いをさせて亡くなった母のようにはなりたくない、延命治療を取りやめるよう決めていた。それと交換であるかのように、紗南は冬香に「おかあさんを《記録》したい」と願った。生きている人が話す様子を録画して、ソフトに取りこむ。それらの情報をもとにAIが人物を再現して、自由に動かしたり、会話もできるようになる。そういうサービスを行っている業者があるのだ。年が経てば経つほど、その技術は向上していくだろうという。紗南は夫の連れ子で、4歳の時に初めて顔を合わせた。紗南にとって冬香は最も信頼すべき存在であり、理想の母になっていたのだ。紗南は冬香に新しく生まれてくる子の名前をつけてほしいとも頼むのだった。記録係の藤野が、家を訪れ、いくつもの質問をするのに、冬香は答えていく。記憶をたどっていくうちに、紗南にも教えていない記憶が蘇ってきた。それは、大好きな恋人と林で二人だけで暮らした記憶、そして、生まれることもなく名前すらつけられなかった「あの子」の記憶だった…。

^{じゆくし}
『熟柿』 佐藤正午 KADOKAWA

「本の雑誌が選ぶ 2025 年度上半期ベスト 10」第 1 位！

タイトルの熟柿とは、「熟した柿の実が自然に落ちるのを待つように、気長に時期が来るのを待つこと」。伯母の葬儀は、彼女がみんなの嫌われ者だったのと、かおりがおめでただったのとで、しみりとした空気はまったくなく、たちまち宴会へと変わってしまった。警察官の夫が酔い潰れていたので、雨のなかをかおりが運転していると、不注意で老婆を轢いてしまう。夫は気づいていないようだ。かおりはドアを開けて確かめることもなく、走り去ってしまうのだった。懲役は 3 年だった。刑務所で男の子を産み、すぐに取りあげられた。まったく面会に来ない夫は、写真の 1 枚もかおりに与えようとしなかった。出所の日、夫に離婚届を突きつけられ、言いなりにハンコを押した。夫は、「母親が犯罪者の子供と、母親に死なれた子供と、どちらがより不幸か、考えてみろ。これから子供が成長して、社会に出て生きていくうえで、どちらが彼の障害になると思うか、よく考えてみろ」と言っていた。夫も職を失っているのだ。かおりは、自分で産んだ子供と会うことのできない母親となった。「わたしは自分が産んだ子供の顔を見たい」。その願いが叶えられるためには、長い長い時間が必要とされる…。

『君と考える戦争のない未来』 池上 彰 集英社

戦後 80 年。戦争についての本を読んでみませんか。「戦争はひどい」と心を動かされるだけの本ではなく、戦争についての知識が身につく本を。この本は、あの池上彰さんが、「戦争ってなに？」という章から始め、戦争の歴史を振り返り、「どうすれば戦争をなくせるの？」までをまとめた本です。

「戦争をなくすには、その悲惨さだけではなく、戦争がどういうものなのかを知る必要があります。戦争を始めるのは人間です。そこにはさまざまな理由があります。それがどんな理由か、どんな指導者が戦争に踏み切り、どのように一般市民の心理が動いたのかを知ることが大切です」。

「戦争がどういうものなのか」。さまざまな戦争の性格や背景をわかりやすく解説してくれるこの本は、戦争学習に最適です。

「戦争は人間が始めるものです。それならば、人間がやめることもできるのです。その目標に向かって、一人ひとりが自分の問題として考え、一歩ずつ歩んでいきましょう」。

◎夏休み貸し出しの本を返しにきてください！